

公益財団法人アジア保健研修所
2021年度事業報告
(第10期 2021年4月1日～2022年3月31日)

はじめに	2
A. 研修事業	
1. 国際研修	2
2. 研修生へのフォローアップ事業	2
1) 英文ニュースレターの発行	
2) リユニオンセミナー	
3. 地域保健推進のための協働事業	3
1) 国際ワークショップ	
2) 研修生によるコミュニティ活動への支援	
①パキスタン	
②フィリピン	
3) アジア各国間での学び合いの促進	
①「ミャンマー情勢とそこでのNGOの役割」フリートーク会合	
②「保健・開発における住民の多様な視点・価値観から学ぶ」プログラム	
B. 国内活動	
1. アジア理解のためのプログラム	4
1) オープンハウス	
2) 初めて始めて講座	
3) AHI 講座	
2. 情報および体験機会の提供	4
1) 情報誌『アジアの健康』の発行	
2) 情報誌『アジアの子ども』の発行	
3) インターネットを活用した広報活動	
4) ボランティア・インターンの受け入れ	
3. 他団体との協力	5
1) 他団体への講師派遣	
2) 団体・ネットワークへの加盟	
3) その他	
C. 法人運営	
1. 理事会・評議員会	5
2. 賛助会員募集・募金活動	6

はじめに

2年以上にわたり事務局を中心に、創立から40年を経た組織として、今の諸状況に照らしてふさわしい事業の展開および組織運営を行うことができるよう、組織のビジョンやミッションの再定義、それを実現するための方途（ストラテジー）の明確化などについて議論を進めた。その末に、「誰もが尊重され、健康に暮らせる社会」を標榜しつつ、その実現のために「誰もが持てる力を発揮し、参加できる社会を目指して行動する人を育む」ことを自らの社会的役割と位置付けた。

この下で従来の事業を見直し、新たな事業を検討し試み始めること、また一連の議論を組織内で共有し、多様な関係者と考える場を持つことが、2021年度の課題であった。しかし、2020年初頭から続くコロナ禍が活動の制約要因となった。一方新たな取り組みを後押しするものとなった。

■支援者との共有と発信

様々な形で対話の場を設けることを年度当初に考えていたが、関係者との対話の場を設けにくく具体的な計画に結び付けることができなかった。

まずは組織内部で組織を刷新していく動きを生み出す体制を作るために、年度終わりに職員と理事による課題検討チームを作り、協議を始めた。これを次年度も継続する。

■元研修生間の学び合いを促進する

新たに掲げた「人づくり」に向けた方途のひとつは、関係者間で自発的な学び合いが生まれるように後押しすることである。

そのねらいのもと、国際研修の参加者が研修で得たものをどのように実践したかを共有する事例研究会を実施したり、事業によって生まれた「最も重要な変化」を把握する評価手法を用い、活動を改善するためのプロジェクトに着手した。

A. 研修事業

1. 国際研修

人びとのニーズがその地域の開発課題への取り組みに反映されるには、住民自身が情報と知識を得て問題解決の担い手となるための支援が必要であり、さらには将来地域活動の中核となる若者の育成が重要である。当研修では、NGOの職員と当該NGOが共に活動を進める若者グループのリーダーを対象とし、若者をはじめとする住民の能力形成のためにふさわしいリーダーシップの育成をねらいとして、オンラインで研修を実施した。

***期間と実施方法**

第1部 6/14～6/26（12日間）

第2部 7/26～8/7（12日間）

第3部 9/13～9/18（6日間）

計30日間各日5.5時間 オンライン

***参加者**

アジア6ヶ国（インドネシア、カンボジア、スリランカ、パキスタン、バングラデシュ、モンゴル）から7組9名（内NGOスタッフ6名）

***内容**

若者が地域づくりの主体となった活動が進められるためには、どのようにすればよいか。参加者は他の参加者との議論を通して、自らの活動の進め方を振り返り、改善の方向性を探った。特に当研修において参加型のアプローチを体験することによって、活動における自分自身のあり方を見つめ、また今後への示唆を得た。

***研修終了後**

研修終了後の10月～11月、各参加者および所属団体の代表と面談を行った。数団体は、参加者が研修で得たことを活動に適用、実践を始めており、他については内部で検討を進めるよう促した。

2. 研修生へのフォローアップ事業

2021年11月「コロナ禍における人びとの連帯と抵抗」と題されたASEAN諸国のNGOのオン

ライン集会での保健分野での発表者として、タイの元研修生2名を推薦し、発表内容について助言した。彼らにとって自分の活動の成果や課題を振り返り、また、他国の関係者と住民のエンパワメントや地域連携に向けた活動の重要性について議論する機会となった。

上述の事例をはじめ、元研修生が国際研修で学んだことを生かし、活動の改善や新たな展開につなげることができるよう、随時関連する情報や機会を提供することによって、彼らの活動に資するようフォローアップを行った。

1) 英文ニュースレターの発行

2021年8月および12月に発行し、各回メールで約1,000通送付した。2022年1月以降は、元研修生や関係団体から届く情報を、適時、英文ホームページに掲載する形をとった。

2) リユニオンセミナー（国別元研修生会合）

続くコロナ禍が要因となり、開催に至らなかった。

3. 地域保健推進のための協働事業

1) 国際ワークショップ

継続的な学習機会の一環として、従来、当事業では特定のテーマに関して先進的な取り組みを行ってきた元研修生の団体と協力して彼らの活動地で研修会を開催してきた。コロナ禍が続いた2021年度は、オンラインで下記の企画を実施した。

テーマ：事例研究会「国際研修後の活動実践」

日時：2022年2月9日

内容：インド、スリランカ、カンボジアの元研修生計4名が、国際研修で学んだことをどのように実際の活動に生かし、活動を変えていったかを発表した。住民の健康と福祉を権利と捉える考え方に基づき、活動の方向性の転換に取り組んでいる事例、健康問題の要因を分析的にとらえ地域のボ

ランティアの参画を高めることに努めている事例など、参加者は具体例から示唆を得た。

参加者：日本を含むアジア13ヶ国から40名

2) 研修生によるコミュニティ活動への支援

元研修生による特定地域での活動に協力した。

① 小規模NGOの若手スタッフ育成

元研修生所属団体 エイズ啓発協会 AIDS

Awareness Society (AAS)との協働(パキスタン)

パキスタン北部において、地方のNGOの若手職員やボランティアスタッフを対象にリーダーシップ育成を目的とする研修を2014年度から実施してきた。2021年度はこれまでの研修の成果を把握するためのインパクト調査活動を協働団体のAASが以前の研修参加者の自主グループとともに実施した。

② ヘルシーライフスタイル推進

元研修生有志 ANAK-NC との協働(フィリピン)

ミンダナオ島北ダバオ州ニューコレリア町で、元研修生の団体 ANAK-NC による、地域住民の健康増進とそのため環境整備の活動を支援してきた。それにより現地で活動が定着してきたものの、メンバーの多くがボランティアとして関わっていることなどから組織・事業運営の弱さがあり、コロナ禍において一層活動の継続が難しくなった。2021年度末において事業実施のための協働関係を終えた。

3) アジア各国間での学び合いの促進

① 「ミャンマー情勢と其中でのNGOの役割」フリートーク会合

ミャンマーの2021年2月以降の国軍支配下の状況を憂慮し、市民やNGOの動きに関心を寄せるタイの元研修生が発起人となり、ミャンマーの元研修生1名を報告者とする会を2021年4月7日にオンラインで行った。参加者10名。参加者にとって、自国の状況に照らし、民主的な社会に向けて声を上げる市民を支えるその活動から、NGO

の役割を考える機会となった。さらに企画の発起人が、ミャンマーの人びとへの支援メッセージを起案し、フェイスブックなどで元研修生が賛同を募り、連帯と支援を表明した。

② 「保健・開発における住民の多様な視点・価値観から学ぶ」プログラム

開発事業において、その対象であり関係者である地域住民自身が何を得たかは、終了後も事業の成果が継続されるかを左右する。この「最も重要な変化」を把握する評価手法を習得する研修会を2022年3月に開催した。

これに参加したフィリピン、パキスタン、スリランカの4団体は、2022年度前半にその手法を用いて評価活動を実施し、同年度後半に、実践報告会を開催する予定である。

B. 国内活動

コロナ感染状況を鑑み、対面とオンラインを併用しプログラムを実施した。

1. アジア理解のためのプログラム

1) オープンハウス

年度当初、以前この行事の企画運営を担ったボランティアの人たちへの当年度の実行委員会の立ち上げを念頭に声をかけたが、感染の収束が見込めず、開催に向けての動きを断念した。

2) 初めて始めて講座

新規の人を対象に、当法人の理念や活動を紹介するための講座を毎月1回開催した。参加者計49名。

3) AHI講座

アジア各国の人びとの暮らしや開発活動、その他関連する課題について伝えることを目的として次の企画を実施した。

① 映画「夜明け前のうた」試写会

復帰前の沖縄で行われていた精神障害者の私宅監置を描いたドキュメンタリー映画「夜明け前のうた-消された沖縄の障害者」の試写会を行った。上映後、差別が医療保健サービスへのアクセスを阻み悪循環につながる社会の構造についてなど意見が交わされた。参加者は、名古屋市内で路上生活者への支援を行っている会員や、社会福祉の教員、その学生など10名。

② オンラインプログラム「上田先生のバングラデシュからこんにちは」

同国在住の元日進市立小学校の教員および現地で国際協力に携わるAHI会員の協力を得て、同国の状況や人びとの暮らしを伝えた。

2021年10月23日 参加者30名

③ タイの元研修生とつなぐプログラム「近くの佛寺がコミュニティ療養センターです」

感染急拡大のバンコクにおいて、外部からの支援を受けつつ地域住民が地域資源を活用して感染状況に対応した経験を元研修生や住民リーダーから聞いた。2021年11月13日 参加者26名

2. 情報および体験機会の提供

1) 情報誌『アジアの健康』の発行

コロナ禍におけるアジア各地の元研修生による取り組みや、支援者・ボランティアの紹介などを主要記事として、「アジアの健康」(A4サイズ・12頁)を4回、各3,000部発行した。加えて、2021年6月にはA41枚の簡便なニュースレターを発行した。事業の報告とともに、研修生の活動地域の人びとが置かれた状況や課題を具体的に取り上げ、わかりやすく伝えることに努めた。

2) 情報誌『アジアの子ども』の発行

スリランカの元研修生から情報を得て、現地でのインクルーシブ教育の実践とそこでの子どもたちの日常を題材に作成し、2022年2月に3,000部

発行した。

3) インターネットを活用した広報活動

不特定多数の新規の人たちに向け、ホームページやブログ等を活用し、情報発信に努めた。同時に、SNS などにより関係者へ情報を発信し、その人たちを通して新しい人たちへ広がり生まれるように努めた。

研修生間に活発な情報交換や学び合いを生み出すよう、そのための素地を充実させるため、英文のホームページを刷新した。

4) ボランティア・インターン受け入れ

学生や社会人を対象に NGO の活動の現場を体験する機会を提供した。

2021 年 4 月に「初めて始めて講座」に参加した大学生が中心となり、グローバルな課題や国際協力について学ぶ集まりを継続的になった。またそのメンバーが外部団体および学校から依頼されたプログラムの実施を担った。

3. 他団体との協力

1) 他団体への講師派遣・イベント出展

要請に応じて、学校や諸団体に職員や関係者を講師として派遣し、アジア各国の状況や国際協力をテーマに講演やワークショップを行った。計 20 件。うち 12 件が大学を含めた学校関係、8 件が他の団体からの依頼であった。また、「小学校で行う国際理解講座」は、市との協働事業として日進市内において 5 校実施した。また、日進市外の学校についても 3 校で実施した。

また、外部団体主催のイベント等への出展やアピールの機会はコロナ禍のため例年より少なかったが、下記をはじめ参加し、新しい人たちと接点を作ることに努めた。

- ・「ぼらマッチ」(名古屋市民活動推進センター主催・2021 年 12 月対面で開催)

- ・「国際協力カレッジ」(JICA 中部センター主催・2021 年 12 月オンラインで開催)

2) 団体・ネットワークへの加盟

下記の諸団体に加わり、関連分野の活動を進める。

< >内は職員の各団体における現役職名。

- ・名古屋 NGO センター
- ・名古屋キリスト教協議会<役員>
- ・障害分野 NGO 連絡会<幹事・研修研究委員>
- ・開発教育協会
- ・「にっしん平和を考える会」ほか。
- * なお、職員が次の役職を務めた。
- ・公益財団法人名古屋 YWCA 評議員
- ・日進市自治推進委員会委員

3) その他

① “Helping Health Workers Learn”翻訳

(一社) BiPH との協力で、住民主体の保健活動の考え方と手法を著した同著の日本語訳作成に取り組んだ。

② 他団体との協力による政策提言

- * 名古屋 NGO センターなど加盟団体の一員として、関係機関への政策提言活動を行った。
- * 2020 年度後半に他団体と立ち上げた「新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！」連絡会では昨年度に引き続き関係省庁への申し入れや市民向けセミナーを実施した。

C. 法人運営

1. 理事会・評議員会

理事会を 4 回、評議員会を 2 回開催した。2021 年度末現在、理事 9 名、監事 3 名、評議員 10 名である。開催日と主な議題は下記の通り。

* 理事会

2021 年 6 月 11 日

- －2020 年度事業報告案・決算案の件
2021 年 10 月 26 日
- －人材育成MS 資金設置の件
- －中長期的財政見直しおよび事務局体制の件
2022 年 3 月 8 日（書面評決）
- －諸規程改定の件
2022 年 3 月 10 日
- －2022 年度事業計画案および予算案の件

*** 評議員会**

- 2021 年 6 月 29 日
- －2020 年度事業報告案、決算案の件
2022 年 3 月 31 日
- －2022 年度事業計画案、予算案の件

■組織強化のための議論

年度終わりには、理事と職員による 3 つのタスクチームをつくり、それぞれに中長期的な事業の検討、支援者との関係強化や団体広報など、組織内外でのコミュニケーション、事務局体制や理事会との連携などの組織運営に関する課題に関して検討を開始した。

■市道南山・黒笹線の拡幅計画について

「東郷スマートインターチェンジ（仮称）」設置に伴う市道南山-黒笹線の拡幅計画は、当法人の敷地（基本財産）にかかるものであったため、沿線の事業所と共に 2019 年以降日進市と協議を重ねた。2021 年度前半に同計画は白紙撤回された。

2. 賛助会員募集・募金活動

賛助会員現勢（2022 年 3 月 31 日現在）

- 賛助会員総数 2,234 名
前年度比 142 名減
- 内、ひとつかみサポーター194 名
前年度比 3 名減
- 寄付者総数 583 名
前年度比 3 名減

●支援者・資金獲得のための働きかけ

1) 古本・切手等での寄付「ギフトリレー」

古本買取・販売の会社の社会貢献制度を利用した寄付を随時受け付けた。また切手やはがきでの寄付も呼び掛けた。

古本による寄付は、計 18 件 14,527 円、未使用・書き損じはがきおよび切手による寄付は、計 132 件 621,041 円であった。

2) 「想いを伝える遺言書講座」開催

遺贈への関心の高まり、一定の社会的認知も生まれていることを受け、元職員である司法書士の協力を得て実施した。2020 年度の開催は、2021 年 5 月および 11 月に講座、および翌週に個別相談会を行い、のべ 17 組の参加があった。

●会費・寄付金実績

■会費収入実績 計 11,929,184 円

前年度比 1,119,219 円減

a) 新規会費 計 88,000 円

内訳： 年会費 15 件 59,000 円

「ひとつかみ」（月額引落） 5 件 29,000 円

b) 継続会費 計 11,841,184 円

年会費による 8,812,184 円

「ひとつかみ」（月額引落） 3,029,000 円

■寄付金収入実績 計 48,418,523 円

前年度比 16,866,434 円増

1. クリスマス・お正月募金 15,346,304 円

期間 2021 年 12 月 1 日～2022 年 2 月 28 日

協力件数 1,355 件

（目標 15,000,000 円 達成率 102%）

2. 一般寄付 32,151,787 円